

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200329		
法人名	医療法人社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)		
所在地	〒020-3614 紫波郡矢巾町大字又兵衛新田5-335		
自己評価作成日	令和7年11月25日	評価結果市町村受理日	令和8年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症予防対策は引き続き現在も継続中ではあるが、R7年5月7日より面会制限が緩和され、5F敬寿荘内に自由に入出入り出来るようになった。面会1回につき2名まで15分以内と、まだ制限はあるが、家族や知人との交流がいつでも出来るようになってきている。利用者本人の普段の生活の様子を直接見る事が出来、家族にも安心して頂いている。ボランティアの方々と直接交流することはまだ出来ないが、雑巾や新聞紙を寄付して頂いたり、地区の公民館文化祭に作品展示の依頼を頂いたり地域との交流は継続している。また、運営推進会議には利用者および家族にも出席して頂き、日常の様子や敬寿荘の現状を報告し情報共有に努めている。センター内では、管理栄養士と敬寿荘職員の勉強会を毎月開催している他、他職種との繋がりも継続している。今年度より、こずかたこども園で毎月開催されるフラワーフレンドに誘って頂き、利用者が交互に参加し、活けたお花を持ち帰り楽しんでいる。直近では10月31日にハロウィーンの前夜祭をして子供達と楽しい時間を過ごすことが出来、以前のように幼老交流が増えてきている。また、利用者が一番身近な健康について、こずかた診療所・訪問看護との医療関係は継続しているが、より一層安心・安全のある生活を継続して頂く為に、24時間365日夜間休日も対応する「こずかた診療所の訪問診療」を受けることに家族の同意を得ており、9月より順次訪問診療が始まっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

矢巾駅の西側に位置する医療福祉多機能ビルの5階にあって、1階には診療所や地域包括支援センター、2階にはこども園、3、4階には老人福祉施設やデイサービス施設が併設されている。様々な職種間での連携と緊密な協力関係が事業所の特徴である。全職員で話し合っ作成した理念「笑・穏・学・地」を掲げ自信と誇りを持ちながら、日々実践に励んでいる。5階という事で、日々地域の方々や直接触れ合うことはできないが、地域に向いたり、階下のこども園の子ども達と触れ合いを持ち、また地域の方々の協力と繋がりを大事にしながら運営に努めている。医療面においても、診療所の医師による訪問診療や訪問看護師による定期的な処置を得ていることは、利用者や家族に安心感を持って受け止められ、職員もそれらを基礎に利用者が穏やかに充実した生活が送られるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、職員それぞれが共有し実践に繋げている。感染症の影響がまだまだあり、以前のような地域との関わりを持つことは出来ていないが、近くのスーパーマーケットと一緒に買い物に行くなど外に出るよう努めている。	理念「笑・穏・学・地」は以前作成されていた内容を更に覚えやすいものするために、全職員話し合いのもとで作成した。玄関やユニットに掲示し、職員は常に意識し自信を持って実践に繋げている。理念の共有を図るために、毎月各ユニットにおいて、カンファレンス後の勉強会を実施し確認をし合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	利用者が直接地域との関わりを持つことはまだ難しいが、職員を通して交流が継続しており、地域の方に存在を気にかけてもらっている。また、センター内の敬老会や音楽会への参加、また、こずかたこども園のフラワーフレンドに毎月参加するなどの幼老交流も増えており、社会や地域とのつながりを感じる事が出来ている。	事業所が5階にある事から、地域の方々と日々触れ合いを持つ事はできないが、センター内の事業所の敬老会への参加や音楽会の鑑賞、こども園のフラワーフレンドへの毎月の参加、子ども達と一緒に楽しむハロウィンイベントなど、様々な幼老交流を行っている。また地域の方々が気に掛けていただき野菜を持ってこられたり、地域の文化祭に利用者の作品提供をお願いされて出展するなど、繋がりをもちながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ケアセンター南昌のホームページを活用し敬寿荘の概要、アルバム写真、認知症の豆知識などを発信している。また、キャラバンメイトの職員が地域の小学校等に出向き認知症サポーター養成講座に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回奇数月に開催しており、率直な意見交換を行っている。利用者・利用者家族も参加し、意見を聞かせてもらっている。	2ヶ月毎に開催し、メンバーは、民生委員、町議会議員、健康長寿課長、利用者、利用者家族、事業所職員で構成され、利用者やサービスの状況について報告し、意見交換を行っている。委員からは、率直な意見が出され、持ち帰って職員で話し合いをしサービスの向上に活かしている。ヒヤリハット・事故については、各ユニットごとに再発防止に取り組んでおり、申し送りノートへの記載などにより職員間の共有を図っている。またセーフティ委員会においても話し合いを行い、年度末にその成果を運営推進会議の中で報告している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を活用し、現在の状況や取り組みを報告している。また、町からも矢巾町全体の情報を提供してもらい意見交換をしている。	運営推進会議メンバーに担当課課長及び職員が出席し、様々な情報や助言、指導をいただいている。介護認定の更新時や認定調査の際にも、細やかに話を聞いてもらい、直接窓口書類を提出して指導や助言をいただくなど、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンスを利用して身体拘束についての勉強会を定期的で開催している。	身体拘束を防止する指針を作成し、委員会を開催するとともに、研修会も3か月ごとに開催している。スピーチロックについてはカンファレンス後の勉強会で全職員で振り返りを行い、意識しながらケアに努めている。安全のため、家族の了解のもとでセンサーマットを各ユニット2名ずつが使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	センター全体で虐待防止委員会を立ち上げ、定期的に委員会が開催されており、管理者が委員になっている。身体拘束の勉強会と併せて虐待についても定期的に学び、虐待防止に努めている。また、ケアセンター全体の研修会にも参加の機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部の研修会への参加の機会は減っているが、毎月の勉強会を活用し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書を用いて説明を行っており、疑問点にも丁寧に答えるよう心掛けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とは常にコミュニケーションを取るように心掛けている。また、面会制限緩和に伴い家族との接触も増えたため、積極的に意見や要望を聞くことが出来ている。運営推進会議を利用し外部への情報提供も行っている。	家族からは面会や運営推進会議に参加した際や家族へ電話した時に、意見や要望を伺っている。伺った意見や要望は申し送りノートに記入し、カンファレンスを通じて職員間の情報共有を図っている。利用者からは、日々の会話の中で伺い、可能なものには対応している。居室担当者は、利用者の日々の状態を写真と手書きのコメントを添えた“おしらせ”と事業所の「敬寿荘だより」を2か月毎にお届けしている。家族から大変好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスで積極的に意見を出してもらっている。また管理者と職員で個人面談を行い、話しやすい環境作りに努めている。	カンファレンスや日々の業務の中で職員の意見や要望を聴いている。管理者は、常に話しやすい環境作りに努め、職員の個人的な相談にも乗っている。職員の提案で、利用者の身体機能の低下を防ぐため、職員と一緒に掃除をしたり、食材の購入を手伝ってもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則は整備されており、変更等ある時は、センター会議を通じて報告されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験年数を踏まえ、認知症実践者研修やリーダー研修、その他内部・オンライン研修に参加する機会があり、研修した内容をカンファレンス等で報告してもらっている。職員間で情報共有し、日々のケアに活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域密着型サービス事業会議やケアマネ会議等で勉強会や、お互いの実情を話し合う機会がある。また、センター内での委員会や研修会で他部署の職員と意見交換をし学ぶ機会を設けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前調査等で得た情報を元に、本人が不安にならないように、本人・家族からも要望を聴き取りし、職員間で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込み時や入居時にも要望等を十分に聞き取りし丁寧な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の意向を聞き取り、今出来る事を提案し必要なサービスに繋げるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分で出来る事を尊重しながら、介護されているという感覚ではなく、一緒に生活をして支え合っている関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを傾聴し、情報共有に努め、共に利用者を支えている関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会制限緩和に伴い、自由に面会が出来るようになり、本人と一緒に衣類やタンスの整理を行ってくれる家族もいるが、面会が少ない利用者には、職員が昔話をするなど馴染みの関係を維持できるように支援している。	面会規制の緩和に伴って近所の方が面会に見え、抱き合っただ利用者も見られた。中には、面会の少ない方もいるので、職員が利用者に応じて工夫しながら支援に努めている。月に一度訪れる理容師が、開設以来の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間でも、得手不得手があるために、職員が仲介し、コミュニケーションを図り、利用者同士が支え合えるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後もケアマネジャーなどからの情報を共有し、本人や家族の経過を把握するよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から利用者の気持ちを聞き出し、要望に応えられるよう努めている。困難な場合は家族の意見もききながら職員間で話しあう。	日頃から利用者に寄り添いながら気持ちを聞き出し、要望に応えられるように努めている。言葉で、自分の思いを伝えられる利用者は、コスモスユニットで6名、ひまわりユニットで5名で、難しい方には、職員が質問を投げかけて反応を確認したり、筆談を用いて意思を汲み取っている。視力が弱い利用者には、大きな文字で書くなど、それぞれに合った方法で思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前からケアマネジャーや家族から話を聞いたり、前施設での生活の様子を情報共有し、本人の求めている生活環境に近づけるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常の様子を観察し、本人が過ごしやすいように見守りしている。家事等出来る場合は本人の状態に合わせて手伝ってもらっている。体調に変化ある時は職員間で把握し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスや日々の申し送りを利用し、職員間で話し合い、本人にとって最適なケアであるかを確認し合い、ケアプランに活かしている。また、その情報は家族へも報告し、意見や要望を聞いている。	カンファレンスや日々の申し送りを利用し、3か月に一回各ユニット毎に3人ずつ、見直しを行っている。居室担当者はいるが、モニタリングは全職員で行い、個々の利用者の現状に即したケアプランを作成している。プラン作成後は家族に説明し、了承のサインをいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を記入するファイルを用意している。受診結果やケアで気づいた事、変化があった事等を記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族と連絡を取り合いながら、対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くのスーパーへ出掛ける事は出来ているが、地域の行事等へ出かける事は、まだ出来ていない。地区の公民館文化祭等への作品展示依頼は継続していただいているので作品作りで参加している。地区の方からは展示の様子を写真でいただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ほとんどの利用者がケアセンター内の診療所がかかりつけ医となっているが、9月より順次訪問診療に切り替わっている。体調に変化があれば、すぐに診てもらえる環境にあり、診療所との連携も密に取れている。	ほとんどの利用者はケアセンター内の診療所をかかりつけ医としていたが、家族の了承のもとで9月から診療所の医師が訪問診療に訪れている。また訪問看護師が2週間に一度訪問するなど、体調に変化があればすぐに見てもらえる環境が整い、利用者や家族に安心感を持って受け止められている。事業所と診療所との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の変化や気づいた事は主治医や訪問看護へ相談出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療状況や退院の目処について病院相談員と密に連絡しあっている。家族からの情報も共有しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	明らかな重度化が見られた時は、主治医に相談しながら、家族との話し合いの場を設けて今後の方針を話し合っている。本人や家族の希望に添いながら本人にとって最善のケアが出来るよう、職員間でも情報共有し統一ケアを心掛けている。	看取り指針は作成しているが、入居時に看取りをしない旨の説明をしている。体調が変化し、重度化した場合には主治医から家族に説明していただくと共に、本人や家族の希望に添って事業所としてギリギリのところまで対応し、最善のケアが出来るよう職員間で情報の共有を図りながらケアに努めている。	

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成しており、目に見える場所にありいつでも対応できるように共有している。また、センター放送でのエマージェンシーコールや博愛荘看護師応援の体制も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中・夜間想定避難訓練や災害時の動きを訓練している。また地域との情報共有する体制も出来ており、近くにある公民館にある物資等も知らせてもらっている。	年2回複合施設全体での避難訓練を実施している。2回とも地震から火災が発生という設定で、1回は夜間想定とし職員は通報と消火の訓練を行っている。また毎月3階から5階の事業所毎に役割を決め、同一建物内のケアセンター全体としての視点のもと、災害対策に取り組んでいる。事業所が5階にあるため、水害時は垂直避難として屋上に避難し、火災時は設置済みの滑り台を使った場合、2次災害が考えられることから、消防による救出を待つ事としている。備蓄は3日分の食糧と、自家発電機が備えられている。	災害時の避難について、より一層の安心・安全を確保するため、町内にある「県総合防災センター」で地震疑似体験や暗闇・煙体験の研修を受講するなど、緊急時や災害時の具体的な避難方法や対応について進めていかれるよう検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を守り、一人ひとりに合った声掛けを行っている。本人にとって居心地よい場所となるよう、定期的に言葉かけの勉強会を開くなど職員間で取り組んでいる。	日々の申し送りを大切なものと位置付け、情報の共有を図りながらケアに努めている。利用者の尊厳を守り、一人ひとりに合った言葉かけを行い、毎月のカンファレンスの後で勉強会を実施し、虐待やスピーチロックについても職員で話し合い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中で、本人が好きなことや何がしたいのかを聞き取り、少しでも本人の意向に添ったケアを行い信頼関係が築けるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者を主人公とし、各自のペースを乱すことの無いよう努めている。会話でのコミュニケーションを取りづらい利用者に対しては、表情を読み取ったり、筆談するなどしながら希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自立している利用者は、本人の好きな洋服を着てもらっている。介助が必要な利用にも選択出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を切ってもらったり、盛り付けや配膳の準備を一緒に行っている。食後の洗い物も一緒に行い、食器棚に食器をしまうところまで行っている。また、誕生日だけでなく要望のあるメニューを献立に入れるよう努めている。	献立は、併設の博愛荘(介護老人保健施設)の管理栄養士が作成したものをアレンジし、職員が一週間分の献立を立てている。食材は近くの店に頼んだり、スーパーに買いに行き、職員が調理している。行事食として、敬老会や誕生会には、とりわけ利用者が希望するメニューを献立に取り入れるように努めている。イベント時には、お寿司や仕出し屋から弁当を取り、好評を得ている。利用者は、食材を切ったり、盛り付けや配膳の準備、後片付けなど、出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量は職員間で把握し、主治医とも情報共有している。博愛荘管理栄養士との勉強会を通してアドバイスをもらい、食事制限や食事形態にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立している利用者には口腔ケアを促し、介助が必要な方には出来るところは自分でやってもらい磨き残しなどを職員がケアしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	職員は一人ひとりの排泄状況を把握し、定期的に声掛けするなどトイレでの排泄を促すよう努めている。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、定期的な声掛けをしながらトイレでの排泄支援に努めている。入居前はリハビリパンツ使用であったが、定期的な排泄誘導で、布パンツに改善された方もいる。現在布パンツの使用者は、両ユニット合わせて5名、13名がリハビリパンツにパットを併用し、車椅子の1名が夜のみオムツ使用となっている。月のリハビリパンツ代を考え、カンファレンスで使用の見直しを検討し、利用者一人ひとりに合わせた使用を進めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排泄状況を職員間で共有し、便秘気味の方への対応を話し合うなど個々に合わせた対応に取り組んでいる。また、食事の前に簡単な口腔体操をすることもある。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	その日の状況に合わせて、個々に声掛けをして入浴してもらっている。拒否する方もおり、無理せず入りたい時に入るように心掛けている。	一日置きの入浴で、日々4、5名が入浴し、朝8時から入浴を楽しんでいる方もいる。申し送りで利用者の入浴状況をチェックして対応している。異性介助や入浴を嫌がる方には、職員を代えたり、無理強いをせず日を変えるなどして、柔軟に対応している。リラックス効果を考え、ラベンダーや金木犀の香りのする入浴剤を入れ、さらにお気に入りの歌手のCDを聴いたり、職員と話が弾むなど、入浴は寛ぎの時間となっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝の時間が個々に違うため、テレビを観たり、話をしたり、本人が眠くなるまでゆっくり過ごしてもらっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の副作用には十分気を付け、変化があった場合は主治医へ報告している。また新しく処方された薬がある時は薬剤師から注意点を教えてもらい職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節ごとに荘内の飾り物を一緒に作って飾ったり、誕生日には皆でお祝いをしてケーキを食べたり、季節の旬の物をメニューに取り入れて楽しんでもらっている。またハロウィンやクリスマス等季節の行事も取り入れマンネリにならないよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の天気に応じて、屋上に行ったり、近くのスーパーと一緒に行き気分転換してもらっている。また春にはお花見ドライブ、秋には紅葉ドライブを企画し、年2回バスハイクを実施しているが、家族やボランティアの方々の同行はまだ出来ない。	天気の良い日は、ケアセンターの建物周辺を散歩したり、近くのスーパーへ食材購入に職員と一緒に出かけるなど、気分転換を兼ね外出している。年2回バスハイクを実施し、春はお花見、秋は紅葉見物を企画し、利用者は、産直に寄って買い物をするなどして楽しんでいる。来年は貸し切りで雫石の「あねっこの湯」に行けるよう検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日々の買い物は職員が利用者に声掛けを行い、希望の物を代わりに購入している。またスーパーと一緒に買い物に行き好きな物を購入することもある。バスハイクで出かけた先で買い物をしてもらっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘(ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次いだり、要望があればこちらから電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が乱雑にならないよう整理整頓している。また、季節にあった飾りを手作りし、飾ることで季節を感じることができるよう工夫している。	複合施設の最上階に食堂やリビングを兼ねた共用スペースがあり、眺望もよく、広くて明るい空間となっている。空調設備も整っていて、過ごし易い環境となっている。ユニット毎にテーブルやたくさんのソファ、複数のテレビが配置され、利用者は思い思いのところで寛いでいる。壁面には、手作りの作品や季節の飾り物が飾ってあり、外の景色と共に季節を感じる事が出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にも一人用の椅子やソファが多数あり、自由に生活してもらっている。仲の良い利用者同士は居室に集まって過ごしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具の配置なども本人や家族と相談しながら行い、家族さんにはなじみの物などがあれば持ち込んでいただけるよう声掛けし、持ち込んでもらっている。	居室内は広く、ゆったりとした造りになっている。ベッドとタンス、床頭台が備え付けとになっていて、テレビ、衣装ケース、家族写真、ぬいぐるみ、馴染みの深い家具等が持ち込まれている。居室も全館空調により室温は快適に保たれており、年間を通して快適に過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者のわかること・できることを邪魔しないよう整理し、わからないことも丁寧に説明し、使用できるように支援している。		